

地域医療構想の着実な実現に向けて

我が国は、急速に少子高齢化が進んでいます。高齢になるにつれて複数の病気を抱え、複数の病気の治療や介護が必要となってきます。一方、急性期を中心として、高度な専門的医療が提供されていますが、これには高額な医療機器や多くの高度専門職を必要とし、高額な医療費がかかります。このような状況から、我が国の医療・介護費は増大し続けて、大きな社会的問題となっています。

国は、このような現状に対応するために法律（医療介護総合確保推進法）を制定し、地域における医療と介護を総合的に確保するための政策を進めています。この政策は、急性期から、回復期、慢性期、そして在宅医療まで切れ目のない、そして持続可能な仕組みを医療圏域ごとに構築することを求めています。仙南地域も上記のような問題が深刻です。今回は厚生労働省が、公的医療機関等の連携・再編の必要性が特に高い区域として「重点支援区域」に選定したものです。公立刈田総合病院とみやぎ県南中核病院の具体的な連携の仕方は、両病院の院長先生を中心とした実務者レベルで早急に検討されることになります。

地域医療構想の着実な実現に向けて、刈田病院は回復期を主に扱いながら、県南中核病院と連携をはかり、かつ、地域の他の医療機関や地元医師会との連携をさらに進める必要があります。地域の皆様、関係各位の方々のご理解とご支援をお願い申し上げます。



公立刈田総合病院
特別管理者
伊藤 貞嘉
いとう きたよし



白石市医師会
会長
小松 和久
こまつ かずひさ

今後求められる公立刈田総合病院の役割

本年1月31日に、地域医療構想における重点支援区域に仙南区域が選定されました。地域医療構想とは2025年における医療需要と病床数を推計し、目指すべき医療提供体制を実現するために必要な、医療機能ごとの病床数を厚生労働省のガイドラインに沿って県が定めるものです。

仙南では公立刈田総合病院とみやぎ県南中核病院が連携推進、再編統合の検討対象となりました。2病院とも規模はほぼ同じで、重複する診療科も多く、急性期患者を主として扱う病院として活動してまいりましたが、地域医療構想調整会議で中核病院は急性期患者を主として、刈田病院は回復期患者を主として扱う病院と決定されました。

2病院とも多額の累積赤字を抱えており、連携による経営の効率化は避けられません。今後の刈田病院が果たすべき役割については、地域住民の皆様の思いや期待、要望を十分にくみ取り、さらには市医師会との病診連携を深めつつ考えていく必要があると考えております。

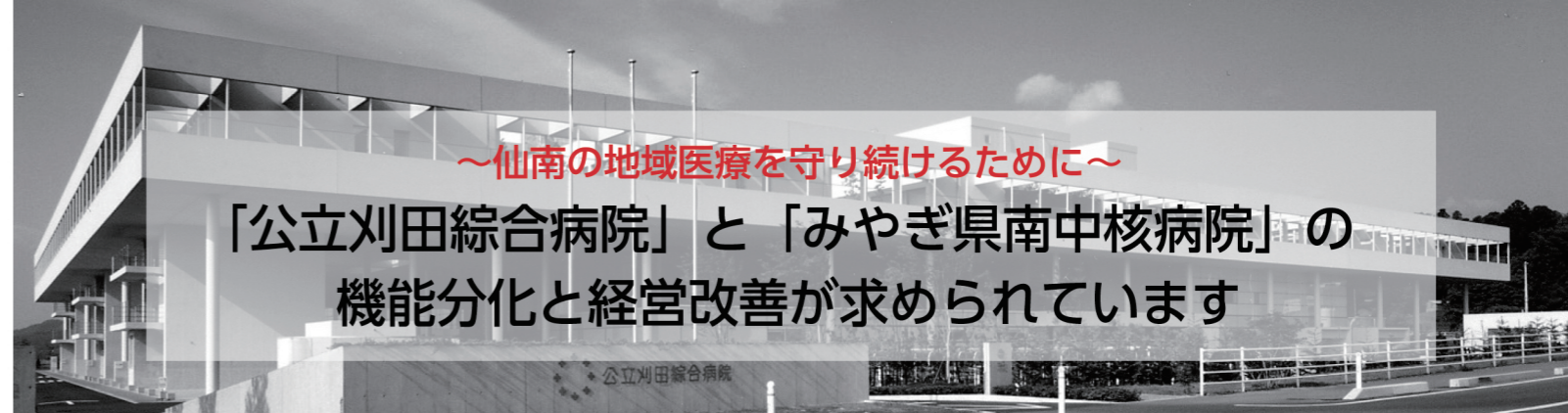
～これからの地域医療の在り方を一緒に考えるため～

「仙南医療圏の重点支援区域選定に関する住民説明会」を開催します

市では、厚生労働省と宮城県の医療政策担当者をお招きし、今回の「重点支援区域」選定に関する説明会を開催します。「重点支援区域の選定で地域医療の何がかわるのか？」といった内容を正しく理解し、市民の皆さんとともに病院の機能分化の重要性を学び、これからの地域医療の在り方を考えるきっかけになればと思います。どなたでも参加できますので、多くの市民の皆さんの参加をお待ちしています（事前申し込み不要）。

- 日時 3月14日（土） 14:00～16:00（13:30開場）
- 場所 中央公民館 大ホール
- 内容 ①地域医療構想の実現に向けた重点支援区域の選定について
②これからの仙南医療圏における公立刈田総合病院の役割について

《 ●問い合わせ先 白石市保健福祉部健康推進課 ☎22-1362 》



■地域医療構想実現に向けた国の「重点支援区域」に仙南区域が選定されました

本年1月31日、地域の病院間の機能の分化・連携の推進といった、地域医療構想の実現に向けた「重点支援区域」として、仙南区域（公立刈田総合病院・みやぎ県南中核病院）が厚生労働省から選定されました。

また、現在、宮城県と東北大学、両病院において、少子高齢化や人口減少、医療従事者の不足などの情勢にあっても、地域医療を将来にわたって持続的かつ安定的に確保していくため、両病院で重複する診療科の再編も視野に入れた「医療機能の分化」の協議を進めています。

今後、公立刈田総合病院では、国や宮城県、東北大学の支援を得ながら「新改革プラン」を策定し、両病院の機能分化と、厳しい財政状況にあっても持続可能な公立病院となるよう経営改善が進められていきます。

「重点支援区域選定」による国の支援内容は？

●技術的支援

- ・地域の医療提供体制や医療機能再編を検討する医療機関に関するデータ分析などを、国から支援を受けて行うことができます。
- ・地域医療関係者との協議の場（講演会など）に対して、国職員の出席や資料作成の支援を受けることができます。

●財政的支援

- ・病床削減といった政策に対しての一層手厚い財政支援を受けることができます。

「重点支援区域選定」による両病院の今後の方向性

車で約20分の範囲に同規模の総合病院が2つ存在する中、現在の両病院の機能をそのまま維持し続けていくことは、医療従事者の不足や、両病院の経営状況、両病院を支える市町の財政状況をみても厳しい状況となってきています。

今後は、両病院の現在の機能を活かしながら、みやぎ県南中核病院における看護師不足や公立刈田総合病院における低い病床利用率といった両病院の課題を考慮し、機能分担が進められていきます。

●公立刈田総合病院

- ・回復期機能に重点（総合内科・外科、初期救急等の対応、リハビリ、透析の充実など）
- ・病床の利用状況や診療実績などを踏まえた病床規模の見直し

●みやぎ県南中核病院

- ・急性期機能に重点（救急などの政策医療、急性期医療、内科系専門医療、外科系の充実など）
- ・休棟病床47床の開棟（看護師の相互補完を検討）

■医療機能の分化により変わること ～持続可能な地域医療体制の構築に向けて～

具体的な実施時期は現在協議中ですが、機能分化により、医療体制が充実する診療科と、いずれかの病院に集約する診療科が出てきます。みやぎ県南中核病院に集約することとなった診療科については、市民の皆さんにとっては交通の面などで不便と感ずることとなる可能性があります。白石市としては、①公立刈田総合病院のこれまで以上の経営改善、②機能分化による市民負担のできる限りの低減の2つを柱に置きつつ、持続可能な公立病院と地域医療体制の構築に向けて円滑に再編が進むよう協議してまいります。

●仙南医療圏の将来必要病床数（→医療ニーズに応じた機能ごとの病床の再編が必要となっています）

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	合計
2018年時点病床数	26	656	324	323	47	1,350
2025年必要病床数	93	357	456	334	0	1,240
差異(増減)	67	▲299	132	11	▲47	▲110

なぜ国の「重点支援区域」の選定が必要？

■仙南地域医療構想の実現のために

宮城県では、2025年（令和7年）にいわゆる「団塊の世代」が75歳以上の後期高齢者となり、医療需要の増大や疾病構造が変化すると予測されている中、適切な医療や介護を将来にわたって持続的かつ安定的に提供していくため、平成28年に「宮城県地域医療構想」を策定し、県内の医療提供体制の整備について検討を続けています。

仙南医療圏においても、人口減少や医療ニーズの変化に対応するため、医師会・歯科医師会の代表や仙南地域の医療機関の院長、医療従事団体の代表、自治体などを委員とする「仙南地域医療構想調整会議」を開催し、2025年を見据えた医療機関の役割や機能に応じた病床数などを協議してきました。

そうした中、宮城県と東北大学、公立刈田総合病院、みやぎ県南中核病院において、限られた医療従事者を効率的に配置するため、両病院で重複する診療科の再編も視野に入れた、「医療機能の分化」への本格的な協議を始めました。東北大学の支援により、医師の適

正配置などを具体的に進めることが可能となり、機能分化への動きが加速することが期待されています。

■病院を存続させるために経営の視点も必要

一方で、病院経営そのものの改善も必要となります。公立刈田総合病院の医師はじめ医療従事者の皆様には日々、患者の命と健康を守るために奮闘していただいておりますが、病床利用率が60%前後で推移するなど、収益がなかなか上がらない状況が続いています（平成30年における一般病床利用率の全国平均は76.2%）。

公立病院は民間同様、医業サービスによる収益を基礎として経営を行っていますが、全国の公立病院の多くは赤字といわれています。救急や小児医療といった、不採算または専門医不足といわれる部門なども担っているため、自治体による一定程度の負担はやむを得ないとの考えもあります。しかしながら、その繰入金（税金の投入）が多額になっていることから、今後も病院を存続させるためには、病院自体の収支バランスについても考えていく必要があります。

■公立刈田総合病院の運営状況

●医師数と一般病床利用率

	H19年度	H20年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
常勤医師数(年度末現在)	29人	24人	27人	24人	23人	22人	24人
一般病床利用率	71.3%	55.4%	63.7%	61.7%	60.7%	62.6%	59.7%

●収益的収支

	H19年度	H20年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
a. 医業収益(※)	44.8億円	35.8億円	43.1億円	42.2億円	41.3億円	42.3億円	42.2億円
b. 医業費用(※)	48.6億円	43.5億円	49.4億円	50.2億円	49.5億円	48.2億円	48.4億円
c. 医業損益(a-b)	▲3.8億円	▲7.7億円	▲6.3億円	▲8.0億円	▲8.2億円	▲5.9億円	▲6.2億円
d. 医業外収益(※)	1.0億円	0.8億円	1.3億円	1.3億円	1.3億円	1.3億円	1.1億円
e. 医業外費用	3.8億円	3.8億円	3.4億円	3.9億円	3.0億円	3.0億円	2.9億円
f. 経常損益(c+d-e)	▲6.6億円	▲10.7億円	▲8.4億円	▲10.6億円	▲9.9億円	▲7.6億円	▲8.0億円

●資本的収支

	H19年度	H20年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
g. 資本的収入(※)	1.6億円	5.9億円	1.5億円	9.8億円	0.6億円	0.8億円	1.0億円
h. 資本的支出	5.9億円	10.0億円	8.6億円	16.3億円	7.3億円	9.0億円	9.0億円
i. 差引収支(g-h)	▲4.3億円	▲4.1億円	▲7.1億円	▲6.5億円	▲6.7億円	▲8.2億円	▲8.0億円

●構成市町からの繰入金を考慮しない場合の実質差引収支

	H19年度	H20年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
j. 差引収支(f+i)	▲10.9億円	▲14.8億円	▲15.5億円	▲17.1億円	▲16.6億円	▲15.8億円	▲16.0億円

【参考】構成市町からの繰入金（病院事業会計分）

	H19年度	H20年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
繰入金	7.7億円	13.6億円	13.2億円	13.1億円	16.6億円	18.3億円	11.4億円
（うち白石市分）	(6.7億円)	(11.8億円)	(11.4億円)	(11.4億円)	(14.4億円)	(15.9億円)	(9.9億円)

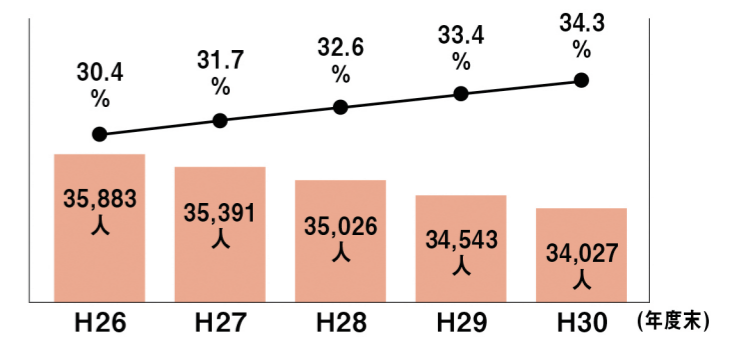
※病院事業の収支状況を分かりやすくするため、医業収益・医業外収益・資本的収入は構成市町からの繰入金を除いた額、医業費用は減価償却費を除いた額を記載しています。

■自治体の財政規模に見合った支援の在り方へ

公立刈田総合病院に対しては、病院を構成する白石市・蔵王町・七ヶ宿町の1市2町による負担が平成19年度までは年間7億円ほどでしたが、平成20年度以降は医師不足による収入減少などの理由から、平成30年度までの11年間は毎年10億円以上、総額150億円以上を繰り出して支援をしてきました（うち白石市は86.7%の約130億円を繰り出してきました）。

自治体においては、少子高齢化に伴う医療費の増大に起因する社会保障費の増大、扶助費などの義務的経費をはじめ、台風などの災害への対応、老朽化した道路や公共施設の維持・更新などにより、これまで通り病院を支援し続けることが難しい状況となっています。白石市においても同様であり、これまでは財政調整基金（市の貯金）を取り崩して病院への支援を続けてきましたが、このままの状況が続くと基金が枯渇し、不測の事態への対応にも支障をきたすだけでなく、この状況を放置すれば、白石市自体が財政破綻する危険性もあります。

●白石市の人口・高齢化率の推移



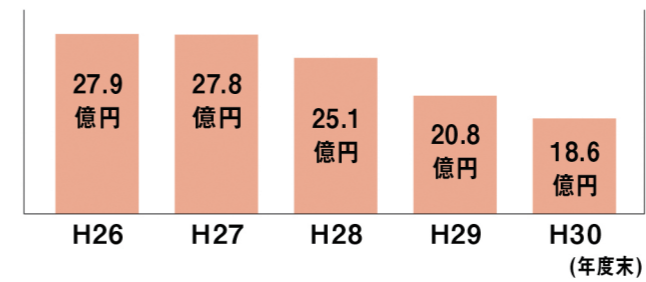
特に、平成28年度の白石市の病院事業に対する繰出比率は、類似団体73団体の平均1.6%を大幅に上回る11.6%にまで上り、類似団体で最も大きい割合で支援をしていました。この点については、「市の財政規模に見合った補助を検討すること」と東北財務局からも指導が入っており、たとえ病院機能を維持するためとはいえ、市の財政状況にも多大な影響を及ぼしていることを表しています。

■今後も公立刈田総合病院を存続させるために

今回の「重点支援区域」の選定は、公立刈田総合病院とみやぎ県南中核病院の機能分化を進めることにより、両病院の医療連携と経営改善を図ることの2つの大きな目的があります。その大前提として、「公立刈田総合病院は仙南地域になくはならない病院」であること、そして、自治体からの繰入金だけに依存しない、持続可能な病院とするためのあらゆる方策を考えていく必要があります。

市民の命と健康を守る公立刈田総合病院をこれからも存続させるため、病院による「財政健全化計画」の策定とともに、国や宮城県、東北大学、医師会、自治体などが協力しながら進めていきますので、市民の皆さんのご理解をよろしくお願いいたします。

●白石市の財政調整基金の推移



白石市が、平成29年度と同額（約16億円）を平成30年度と令和元年度も繰り出していた場合、基金の減少はさらに大きくなり、昨年台風19号災害といった災害復旧に迅速に対応できない可能性がありました。

これからも持続可能な公立刈田総合病院を目指します

白石市長 山田 裕一

本市のこれまでとこれからの人口動態や高齢化率の推移、必要とされている医療などを見ていくと、これまでとは違った医療の在り方が必要となってきており、少子高齢化が進展することによって、医療とともに、介護や在宅医療との連携の重要性がますます大きくなっていく地域であることを強く感じています。

今後の医療ニーズに的確に応えていくためには、公立刈田総合病院とみやぎ県南中核病院との医療連携を、必ず実現しなくてはならないと考えていま

す。今回、国から重点支援区域として選定されたこと、また、宮城県と東北大学、そして、両病院が核となって仙南医療圏における新たな地域医療の仕組みを作り上げていくことが、市民の皆様の安全と安心、また、さらなる地域医療の深化を実現するものであると期待しています。

公立刈田総合病院は、白石市になくはならない病院です。今後も、白石市として公立刈田総合病院の支援を継続するとともに、持続可能な病院運営を目指して、関係機関と連携してまいります。